

## 第 50 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時:平成 29 年 10 月 27 日(金)16 時 30 分～18 時 30 分

会 場:東北大学災害科学国際研究所1階 多目的ホール(仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1)

### テーマ:「海外の災害への関わり」

概要:設置から 5 年を迎えた当研究所では国際的、学際的に実践的防災学を展開してきました。また、東日本大震災の被災地との強力な連携、諸外国との学術的な連携も多く行っております。今回のフォーラムでは、当研究所の研究者たちが海外の災害への関わりや今後のあり方等について、様々な視点から議論いたします。皆様の奮ってのご参加を、所員一同お待ちしております。

#### 1. 16:30～16:50 (発表 20 分)

タイトル :**モンゴル国の地震防災対策に関する技術支援**

話題提供者 :**源 栄 正人(災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野)**

発表要旨 :本発表では、まず、モンゴル国の地震工学・地震防災関係者との交流の経緯・実績について紹介する。次に、モンゴル国の地震環境について概説するとともに、筆者が技術指導に携わった一極集中都市である首都ウランバートルの地震被害想定(JICA プロジェクト)について示す。また、当研究所の特定プロジェクト研究として実施したリアルタイム地震観測システムの構築と観測データの紹介、およびモンゴル国の建物の振動 特性などについて報告する。

#### 2. 16:50～17:10 (発表 20 分)

タイトル :**SATREPS トルコ防災での海底観測紹介**

話題提供者 :**木戸 元之(災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野)**

発表要旨 :SATREPS は JST/JICA が主導する途上国との共同研究プログラムで、我々はそのなかの「マルマラ海域の地震・津波災害軽減とトルコの防災教育」というプログラムに参加している。活動内容は、地震被害に対して基礎研究から防災研究まで多岐にわたっているが、プログラムの最終年度を迎えるにあたり、我々が担当してきた、マルマラ海での海底断層の動きを調べる研究について、観測の顛末と科学的な成果について報告する。

#### 3. 17:10～17:30 (発表 20 分)

タイトル :**国際社会における長期的災害調査の意義と展望:タクロバン市の今**

話題提供者 :**井内 加奈子(人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野)**

発表要旨 :国際規模の災害発生後には、様々なアクター(国際機関、各国政府、国際・国内 NGO、研究機関など)が被災地で、復旧・復興関連の活動を展開する。このようなアクターは、1, 2 年をピークとして徐々に減少し、経年と共に当初掲げた「よりよい復興」のための計画や事業が変更されることも少なくはない。本発表では、台風ハイアの被災地であるタクロバン市が、発災後 1-2 年時から、どのような過程を経て復興しているのかを紹介しつつ、長期的な調査を行うことの意義について述べる。

#### 4. 17:30～17:50 (発表 20 分)

タイトル :**海外の災害医療と研究の意義**

話題提供者 :**江川 新一(災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野)**

発表要旨 :国際的にも災害による被害は多様性を伴いながら増大している。さまざまなハザードに対して、脆弱性を少なくし、対応能力を向上させることが災害リスク減少(防災)に貢献する。フィリピン、ネパールの災害調査の概要とともに、世界の災害医学会で進められている科学的な根拠に基づく防災の推進について紹介する。人々の健康を守ることは保健医療クラスターだけの仕事ではなく、すべてのクラスターのゴールである。

#### 5. 17:50～18:20 質疑/総合討論 (30 分)

#### 6. 18:20～18:30 事務連絡・その他(10 分)

司会・進行:**小野 裕一(情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス)**